

第3学年 学級活動（食育）指導案

平成28年 月 日（ ） 第 校時

阿波市 小学校 第3学年 組（名）

指導者 T1 学級担任

T2 給食センター栄養教諭

1 題材 きゅう食パワーで元気いっぱい

活動内容（2）キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材設定の理由

子供たちにとって、給食は毎日の楽しみのひとつであり、今日はどんな献立かと興味を持っている児童は多い。児童の給食の嗜好を見ると、好きなものはカレーライスやハンバーグ、からあげ、フルーツポンチなどであり、残食は少ない。一方で、苦手なものは、ひじきの煮物や酢の物、きんぴらなどであり、最初から減らしたり、中には全く食べずに残す児童もいたりして、残食が多くなってくる。

阿波市では平成27年度より、全ての市内幼稚園・認定こども園・小学校・中学校へ新しい給食センターから給食を提供している。給食センターでは、市内産の農産物を豊富に使用し、おいしく栄養バランスのとれた給食を日々工夫しながら作っている。子どもたちは給食センターから送られてきているのは知っているが、給食の献立の工夫や、どのように給食の調理作業がされているかを知る機会はない。

そこで、給食の献立がどのように考えられているのかを学んだり、調理の様子を見たり、調理員の思いを知ることにより、給食に対する理解を深め、給食をできるだけ残さず食べようとする意欲を高めたいと思い、本題材を設定した。

3 題材の目標

普段食べている給食についての理解を深め、できるだけ残さず給食を食べようとする意欲をもつことができる。

4 題材の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自らの食生活の問題について関心をもち、日常生活の中で進んで改善していこうとする意欲をもつことができる。	給食の食べ残しを減らすために、どうすればよいのか、自分にできることを考え、食生活に生かしている。	給食が栄養のバランスを考えて作られていることを理解することができる。

5 食育の視点

○食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心をはぐくむ。（感謝の心）

○心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。（心身の健康）

6 指導計画

○事 前・・・給食についての質問を集める

○本 時・・・学級活動「きゅう食パワーで元気いっぱい」

○事後指導・・・給食時の指導

ワークシートを活用し、指導後1週間の摂食状況を確認し、指導する。

7 本時

(1) 目標

給食は栄養のバランスを考えて作られていることや、給食がどのように作られているかを知り、できるだけ残さず食べようとする意欲をもつことができる。

(2) 展開

時間	主な学習内容と活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	1 今日の給食についてふり返る。	○今日の給食時間を振り返らせ、残さず食べられたか聞く。(T1) ○本時のめあてを確認する。(T1)	
きゅう食パワーで元気いっぱい			
展開 30分	2 給食の栄養バランスがよいことを知る。	○体の中でのほたらきによって3つのグループに分かれること、給食にはすべてのグループの食べ物が毎回入っていることを説明する。(T2)	
	3 給食がどのように作られているのかを知る。	○給食センターの調理の様子を、写真を見せながら説明する。(T2)	
	4 調理の様子を見て気が付いたことを発表する。 ・給食センターの職員からのメッセージを聞く。	○給食の調理の様子を見て、気付いたことや驚いたことなど感想を発表させる。(T1) ○どのような思いで給食を作っているかを捉えさせる。(T1)	
まとめ 10分	5 今日の学習を振り返り、自分の目標を決定し発表する。	○本時の内容を振り返り、自分なりのめあてをもてるようにする(T1・T2)	給食を残さず食べようとする意欲をもつことができる。 (ワークシート・発表)

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	給食は、栄養バランスを考えて作られていることを理解し、できるだけ残さず食べようとするための工夫をしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	机間指導を行い、本時の学習を振り返らせて、自分でできる目標を考えさせる。

8 他教科等との関連 社会科「わたしたちのまち」

板書計画

